

# 青島4号 (あおしまよんごう)

育成者：杉山晴信（静岡県清水市 来歴：「青島温州」の珠心胚実生  
谷津町1丁目455）

## 特性

昭和33年から40年にかけて、静岡県柑橘試験場がウンシュウミカンの耐寒性系統を育成する目的で、青島温州などの種子や穂木に放射線照射し、耐寒性の個体選抜を行った。昭和44年に選抜からはずれた62個体（未結実）を育成者が分譲を受け、柑橘試験場や清水市役所などの協力のもとに育成、調査を行い、この内の1個体を選抜し昭和57年3月に協力機関の同意を受け「青島4号」と命名した。「青島4号」は「青島温州」の珠心胚実生であるが、放射線照射を受けていない対照個体からの選抜である。

### ■栽培特性

連年結果している成木の枝条は、「今村温州」ほどではないが、「青島温州」と同様に上向性でがっしりとした樹形となる。珠心胚実生から選抜された系統に共通した特性であるが、「青島4号」も種子親の「青島温州」に比較して樹勢が強く、節間が長くなり葉が大きくなりやすい。しかし、樹齢を経て連年結実するようになると「青島温州」に似てくる。樹勢が強く、隔年結果性は「青島温州」よりも強い。

### ■果実特性

果形は扁平で、形状は「青島温州」とほとんど変わらないが、果面はやや平滑である。果実の玉揃いは良いが大果になりやすい。収穫時期は12月上旬である。育成地での品質は、糖含量が11～12度で果実間のバラツキが少ない。クエン酸は早くから減少するが貯蔵中の減酸はゆるやかで、味の変化が少なく、貯蔵性がある。樹上中の減酸が早いので、12月出荷が可能である。着色は、「青島温州」よりやや早く10月中旬より始まり、11月下旬から12月上旬に完全着色する。果実間の着色の差が少なく、「青島温州」に比べて着色不良果の混入率は低い。

### ■病虫害抵抗性と栽培上の留意点

病虫害抵抗性は基本的には「青島温州」と同じであるが、幼木期に夏秋梢が徒長しやすいため、風当たりの強い場所ではかいよう病が発生することがある。

栽培上の留意点としては、群状に結実させた方が、果実の玉揃いが良く、果形が扁平になり、着色も早く品質が良い。初期結実性が劣るので、切り返しせん定はできるだけ控えた方が良い。

### ■地域適応性

黒ボク土などの肥沃な土壌で栽培すると、樹勢が強くなり結実しにくい。そのため、比較的耕土が浅い土壌に適する。

静岡県内の栽培面積は平成8年で約130haあり、他に熊本県、大分県などで栽培されている。（鹿野英士）